
地域金融機関の意思決定構造 とソフト情報の活用

早稲田大学政治経済学部 小倉義明
中央大学商学部 根本忠宣
慶應義塾大学商学部 渡部和孝

平成25年10月30日

京都大学時計台記念館2階 国際交流ホール
シンポジウム 金融システムの安定性と金融業の競争

中小企業融資とソフト情報

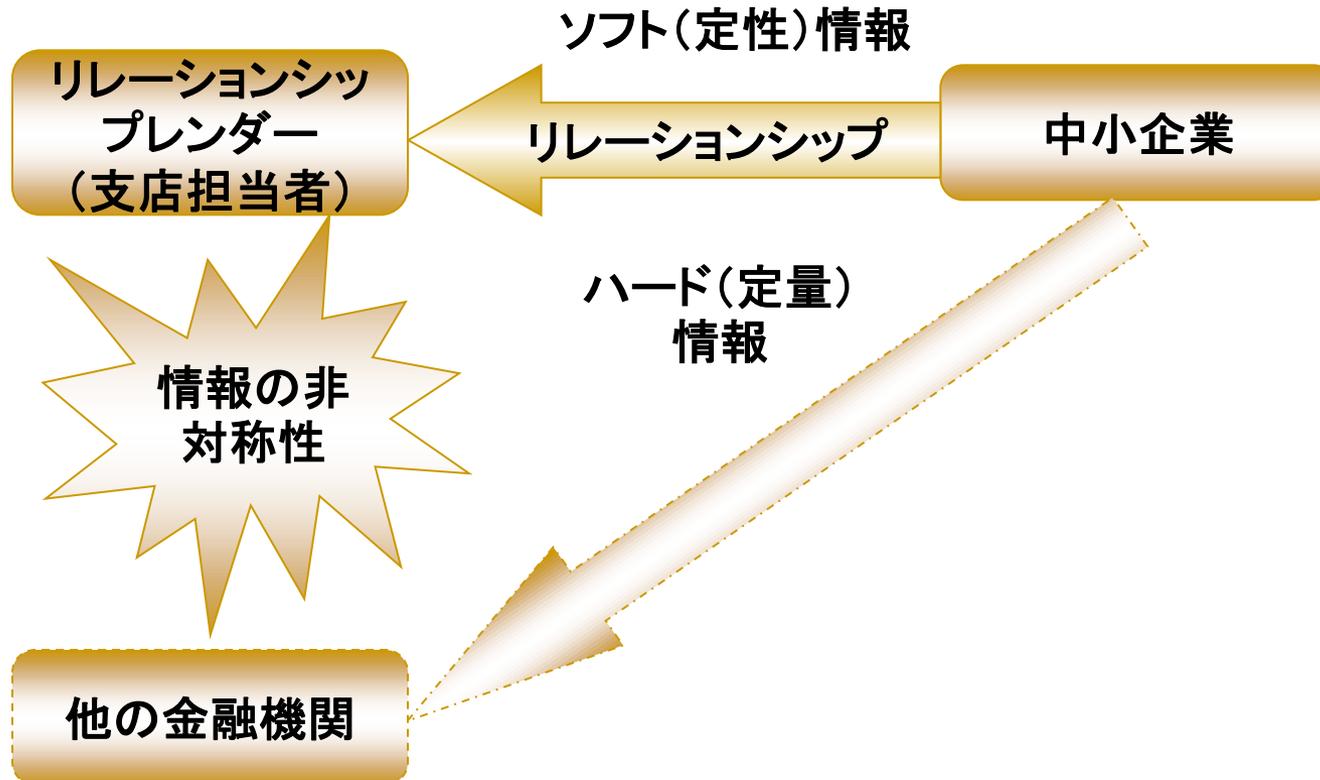
- 中小企業は財務情報など第三者に証明可能ないわゆるハード情報だけでは返済能力の審査には不十分。
- したがって金融機関にとってはいわゆる**ソフト情報**の収集が重要。

ソフト情報＝「私的」かつ「第三者に証明不可能」な情報

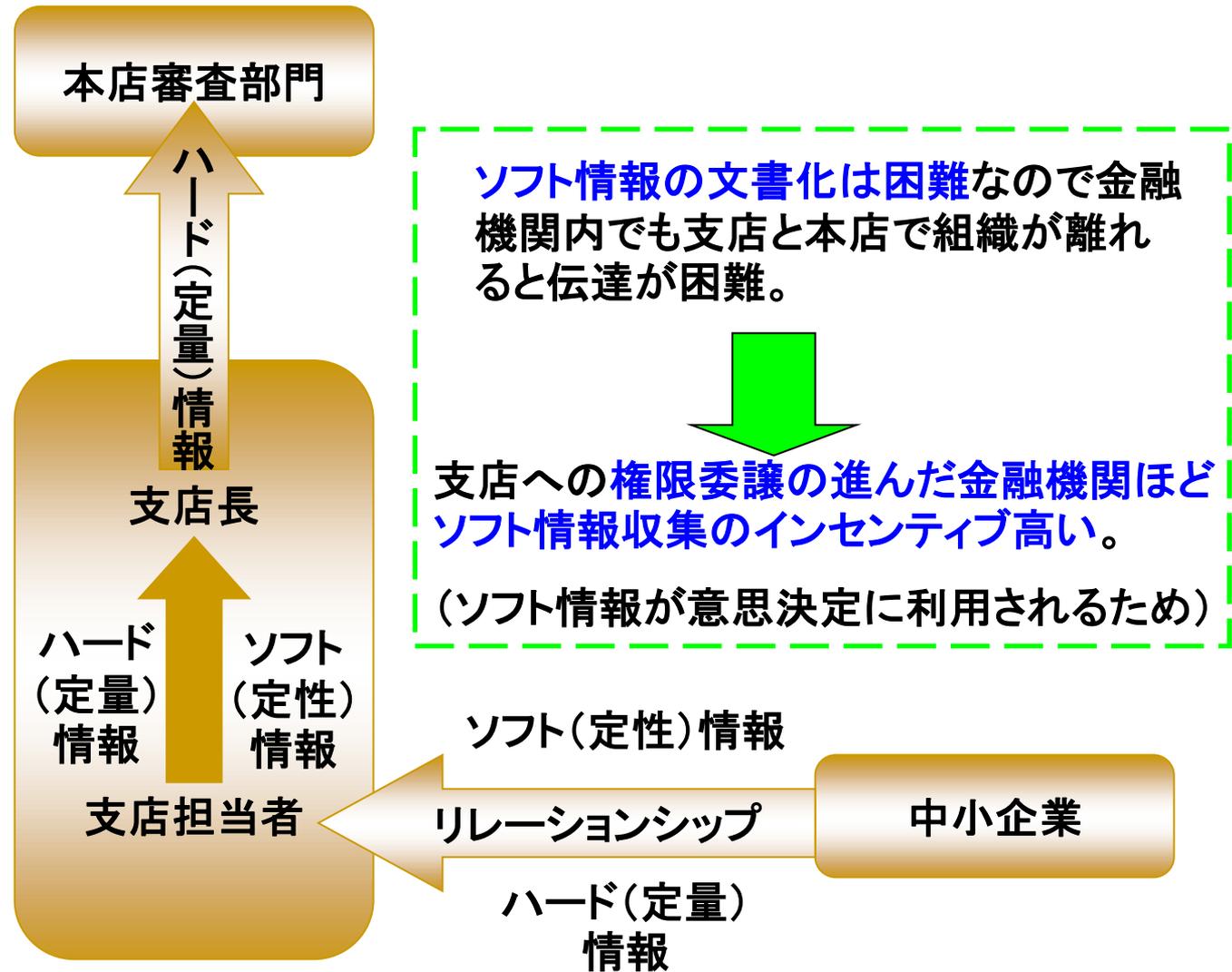
⇨ **定性情報**

例) 経営者の事業意欲、経営能力、業界・地域での地位・影響力・評判、将来の資金使途など

ソフト情報とリレバン



ソフト情報と組織構造



組織の分権度とソフト情報

命題

集権的意思決定構造よりも**分権的構造を持つ金融機関の方が、支店融資担当者のソフト情報収集の努力水準が高く、融資可否判断にソフト情報が活用される可能性が高い。** (Stein (2002) Proposition 1)

融資決定の権限配分とソフト情報の活用度合いについての実証研究

- 金融機関の規模とソフト情報収集活動の関係
- 特定の金融機関の個別融資案件の審査に関する内部データを用いた実証研究

金融機関の規模とソフト情報収集活動の関係についての実証研究

- Berger et al. (2005)、Uchida et al. (2008)
- ✓ 企業向けアンケート調査と企業の貸し手金融機関の財務データのマッチング。
- ✓ 金融機関の**規模**（総資産）を**分権度の代理指標**として利用。
- ✓ 規模が小さい金融機関ほど企業との関係が密接（リレーションシップが強い）。

特定の金融機関の個別融資案件の審査に関する内部データを用いた実証研究

- Liberti and Mian (2009)
 - ✓ 審査情報を客観的情報 (ex 財務データ)と、主観的情報 (ex 経営者の経営理念、管理能力)とに分類すると、**融資担当者自身で融資決定**した案件では融資額に与える影響において**主観的情報が重要**だが、上位の役席により決定された案件では客観的情報がより重要。
- Agarwal and Hauswald (2010)
 - ✓ 権限委譲の進んだ支店では、詳細な情報を稟議書に注記する割合が高く、顧客との長期的リレーションシップが維持されやすい。

既存の実証研究の問題点

- 金融機関の規模とソフト情報収集活動の関係
- ✓ 金融機関の規模は組織内の分権度の代理指標として妥当か？
- 特定の金融機関の個別融資案件の審査に関する内部データを用いた実証研究
- ✓ 一金融機関のデータに基づいているため、金融機関間の意思決定構造の相違が捕捉できない。

融資決定の権限配分とソフト情報の活用度合いについての実証研究

- 金融機関の規模とソフト情報収集活動の関係
- 特定の金融機関の個別融資案件の審査に関する内部データを用いた実証研究
- 金融機関向けに意思決定権限に関するアンケート調査実施

アンケート調査の概要

「民間金融機関の中小企業向け融資の実態および円滑化のための課題に関するアンケート調査」

実施主体：(独)経済産業研究所(RIETI)

実施時期：2010年11月

- ✓2007年から2008年にかけて地銀、第二地銀、信金、計19機関を対象として実施したヒアリング調査での調査項目に基づく。
- ✓全都銀、地銀、第二地銀、信金、信組551機関を対象、299機関回答(54.3%)
- ✓回答率は業態によってばらつきがあり、信金の回答率がもっとも高く、地銀、第二地銀は低い。都銀の回答はなし。

本部審査部の陣容

構成比	地銀・第二地銀	信用金庫	信用組合	回答機関全体
1～4人	6.2	51.6	62.7	49.8
5～9人	40.7	39.7	33.7	38.1
10人以上	53.1	8.7	2.4	11.7
平均(人)	13.7	5.3	4.2	5.9
標準偏差	8.9	3.4	2.1	4.9
最小値	3	2	1	1
中央値	11	4	4	5
最大値	35	34	12	35
回答数	32	184	82	298

- ✓規模の大きな業態ほど大きい傾向にある。
- ✓ヒアリング調査から、大手地銀のなかには人員が100名前後に達する場合もあることが明らかになっている。

融資審査における決裁段階数

(1) 本部決裁時の本部内承認段階数(最大)

構成比	地銀・第二地銀	信用金庫	信用組合	回答機関全体
2段階以下	0.0	2.2	9.6	4.0
3段階	0.0	14.7	30.1	17.4
4段階	12.5	25.0	25.3	23.7
5段階	53.1	24.5	18.1	25.8
6段階	25.0	19.6	12.0	18.1
7段階以上	9.4	11.4	3.6	9.0
回答数	32	184	82	298
平均段階数	5.3	4.8	4.0	4.7

✓審査部門内で意思決定に至る構造に業態間で大差はない。

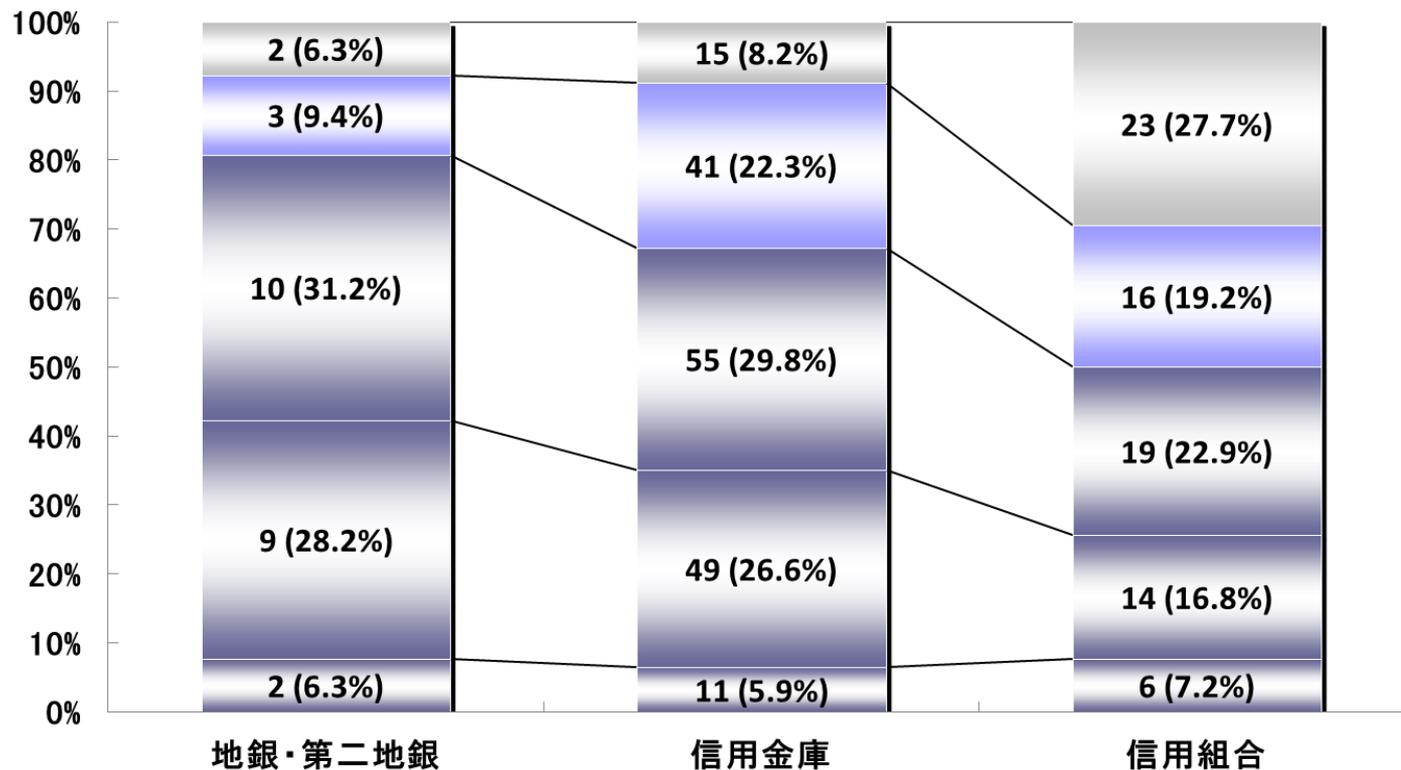
融資審査における決裁段階数

(2) 支店内の承認段階数(最大)

構成比	地銀・第二地銀	信用金庫	信用組合	回答機関全体
2段階以下	15.7	22.3	36.1	25.4
3段階	37.5	37.5	48.2	40.5
4段階	25.0	32.6	14.5	26.8
5段階	15.6	6.0	0.0	5.4
6段階	6.3	1.6	0.0	1.7
7段階以上	0.0	0.0	0.0	0.0
回答数	32	184	82	298
平均段階数	3.5	3.2	2.7	3.1

✓支店内で意思決定に至る構造にも業態間で大差ない。

融資の本部決裁比率（案件数ベース）



＝20%未満 ＝20%以上～40%未満 ＝40%以上～60%未満 ＝60%以上～80%未満 ＝80%以上

✓信組の本部決裁比率は相対的に高い。

支店長の最高決裁限度額 (正常先、無担保・無保証融資額)

構成比	地銀・第二地銀	信用金庫	信用組合	全業態
1,000万円未満	15.6	59.2	71.1	57.9
1,000万円以上～ 5,000万円未満	15.7	30.4	15.7	24.7
5,000万円以上～ 1億円未満	15.7	1.1	0.0	2.4
1億円以上～ 5億円未満	34.4	2.7	0.0	5.3
5億円以上～ 10億円未満	6.3	0.0	0.0	0.7
10億円以上	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	12.5	6.5	13.3	9.0
計	32	184	83	299

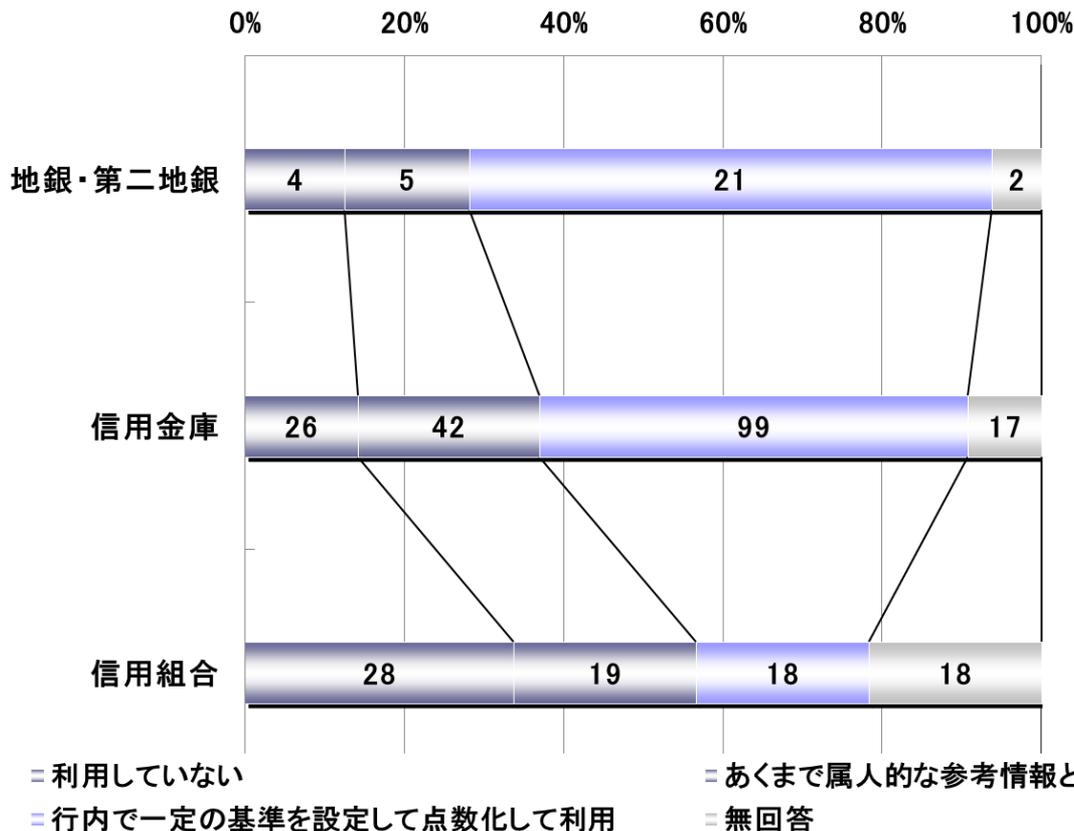
✓規模の大きい業態ほど支店長の決裁権限が大きい。

審査判断に用いる定性情報 (重要なもの上位3つ)

該当率	地銀・第二地銀	信用金庫	信用組合	全業態
経営者評価	90.6	95.1	96.4	95.0
後継者評価	9.4	47.8	54.2	45.5
従業員評価	3.1	7.6	6.0	6.7
経営者の補佐役の存在	0.0	2.2	0.0	1.3
取引先からの評判	6.3	7.6	15.7	9.7
企業・事業性評価	93.8	80.4	74.7	80.3
業界評価	81.3	41.3	36.1	44.1
地域経済の動向	6.3	10.3	12.0	10.4
その他	6.3	0.5	1.2	1.3
無回答	0.0	0.5	0.0	0.3
回答数	32	184	83	299

✓信金・信組では後継者評価の重要性が高い。

信用格付設定時の定性情報利用状況



1. 稟議書起案前の事前協議
- ↓
2. 稟議書起案
- ↓
3. 金利を除く融資条件の決定
- ↓
4. 信用格付けの算定
- ↓
5. 行内基準金利の設定
- ↓
6. 実行金利の決定

- ✓もっとも定性情報が利用されているのは(内部)信用格付設定時。
- ✓格付設定時に点数化して利用している金融機関が多い。

簡単な実証分析

命題

集権的意思決定構造よりも分権的構造を持つ金融機関の方が、支店融資担当者のソフト情報収集の努力水準が高く、融資可否判断にソフト情報が活用される可能性が高い。

推計式

$$\text{SOFT} = f(\text{DECENTRAL})$$

SOFT: ソフト(定性)情報の活用度の指標

DECENTRAL: 意思決定構造の分権度の指標

被説明変数(SOFT)

変数名	変数の説明	観察個数	平均
SOFTANY	融資案件に関する意思決定について定性情報を「参考情報として利用」しているか、「点数化して利用」している場合に1を取り、その他の場合に0を取るダミー変数	260	0.558
SOFTIRANY	信用格付の算定にあたって定性情報を「参考情報として利用」しているか、「点数化して利用」している場合に1を取り、その他の場合に0を取るダミー変数	262	0.779

説明変数 (DECENTRAL)

変数名	変数の説明	観察個数	平均	標準誤差	最小値	最大値
BRANCH	支店長の融資権限（信用ベース，万円）	272	3,063	8,141	250	65,000
BRANCHASSET	支店長の融資権限／総資産	272	0.000075	0.000108	6.40E-07	0.000682
BRANCHSHARE	支店決裁比率（案件ベース）	275	0.475	0.227	0.10	0.95
LAYER	意思決定の階層数（本支店合計）	292	7.75	2.07	2	14
ASSET	金融機関の総資産（2009年3月期，百万円）	299	554,528	970,252	4,556	7,401,837

その他、コントロール変数として、HARDENED（定性情報の全行的な電子化管理を表すダミー変数）、業態ダミー（地銀・第二地銀ダミー（ベース）、信金ダミー、信組ダミー）

分権度と定性情報の利用度 プロビットモデルの推計結果

	限界 効果	標準 誤差	z 値		限界 効果	標準 誤差	z 値
BRANCHASSET	-41.98	112.41	-0.37		22.25	110.66	0.20
BRANCHSHARE	-0.0141	0.0681	-0.21		-0.0129	0.0672	-0.19
LAYER	0.0163	0.0081	2.05 **				
LNASSET					0.0338	0.0172	1.99 **
N		213				219	

✓全サンプル

✓被説明変数=SOFTANY(審査の最低一段階で定性情報利用)

✓意思決定の階層数、総資産の限界効果は正で有意。

分権度と定性情報の利用度 プロビットモデルの推計結果

	限界 効果	標準 誤差	z 値		限界 効果	標準 誤差	z 値
BRANCHASSET	1061.93	600.06	1.77 *		1226.52	673.75	1.82 *
BRANCHSHARE	0.1993	0.2111	0.94		0.0923	0.2050	0.45
LAYER	-0.0083	0.0213	-0.39				
LNASSET					0.0263	0.0536	0.49
N		135				138	

- ✓ サンプルを信用金庫に限定
- ✓ 被説明変数 = SOFTIRSCORE (格付設定時に点数化して定性情報利用)
- ✓ 総資産で相対化した支店長の決裁権額の限界効果が正で弱い有意。

結論

- 推計モデルによっては、**規模の大きい金融機関ほど定性情報の利用が進んでいる**との既存実証手法の直感的前提に反する結果。
- 推計モデルによっては**支店長の決裁権限が金融機関の資産規模に比して大きい機関で、定性情報の利用が多い**との理論的予見と整合的な結果。

参考文献

- Agarwal, S., and R. Hauswald (2010), “Authority and Information”, mimeo, Federal Reserve Bank of Chicago and American University.
- Berger, A., N. Miller, M. Petersen, R. Rajan, and J. Stein (2005), “Does Function Follow Organizational Form? Evidence from the Lending Practices of Large and Small Banks”, *Journal of Financial Economics*, Vol. 76 No.2, pp. 237-269.
- Liberti, J., and A. Mian (2009), “Estimating the Effect of Hierarchies on Information Use”, *Review of Financial Studies*, Vol.22 No.10, pp.4057-4090.

参考文献

- Stein, J. (2002), “Information Production and Capital Allocation: Decentralized versus Hierarchical Firms”, *Journal of Finance*, Vol. 57 No.5, pp. 1891-1921.
- Uchida, H., G. Udell, and W. Watanabe (2008), “Bank Size and Lending Relationships”, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 22 No.2, pp. 242-267.
- 小倉義明、根本忠宣、渡部和孝 (2012), 「地域金融機関の意思決定構造とソフト情報の活用」, Vol. 109, pp. 31-53.